厚生労働省 ひと、くらし、みらいのために Ministry of Health, Labour and Welfare

| | |
|---|---|
| 第１回介護福祉士国家試験パート合格の導入に関する検討会 | 資料４ |
| 令和６年５月17日 | |

# 分割パターンに関する検討について

厚生労働省 社会・援護局

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

# 第36回介護福祉士国家試験の概要

## 介護福祉士国家試験　概要

| | 介護福祉士試験 |
|---|---|
| 回数と時期 | １回（筆記試験及び実技試験）、筆記試験：１月、実技試験：３月 |
| 受験手数料 | １８，３８０円 |
| 試験会場 | 筆記試験　３５試験地６３会場<br>実技試験　２試験地（東京、大阪会場） |
| 試験形式 | 筆記試験　１３科目１１科目群、１２５問　マークシート形式<br>実技試験　対面実施 |
| 試験委員人数 | ８５名<br>委員長　１名、副委員長　８名、<br>幹事委員　１７名（実技試験含む）<br>筆記試験委員　７５名 |
| 試験委員会 | １７回（選定会議～校正会議） |
| 作問期間 | １１ヶ月（５月総会～３月末まで）、<br>委員ひとりあたり５問程度 |

## 試験時間割

| | 試験時間 | 領域 | 試験科目 | 出題数 |
|---|---|---|---|---|
| 午前の試験 | 10：00～11：40<br>（配慮者最大10:00～12:30） | 人間と社会 | 人間の尊厳と自立 | 2 |
| | | | 人間関係とコミュニケーション | 4 |
| | | | 社会の理解 | １２ |
| | | こころとからだのしくみ | こころとからだのしくみ | １２ |
| | | | 発達と老化の理解 | 8 |
| | | | 認知症の理解 | １０ |
| | | | 障害の理解 | １０ |
| | | 医療的ケア | | 5 |
| 午後の試験 | 13：35～15：35<br>（配慮者最大13:35～16:35） | 介護 | 介護の基本 | １０ |
| | | | コミュニケーション技術 | 6 |
| | | | 生活支援技術 | ２６ |
| | | | 介護過程 | 8 |
| | | 総合問題 | | １２ |

＊（午前）試験に関する説明9：20～　（午後）試験に関する説明13：10～

## 合格基準

次の2つの条件を満たした者を筆記試験の合格者とする。

ア　問題の総得点の60%程度を基準として、問題の難易度で補正した点数以上の得点の者。
イ　アを満たした者のうち、以下の試験科目11科目群すべてにおいて得点があった者。

［1］　人間の尊厳と自立、介護の基本　［2］　人間関係とコミュニケーション、コミュニケーション技術　［3］　社会の理解
［4］　生活支援技術　［5］　介護過程　［6］　こころとからだのしくみ
［7］　発達と老化の理解　［8］　認知症の理解　［9］　障害の理解
［10］　医療的ケア　［11］　総合問題

(注意)　配点は、1問1点の125点満点である。

# 介護福祉士試験の分割パターン
## ①パートごとの分割方法及び科目の並び順について

（分割パターンについて）

○　R5年度「介護福祉士国家試験の検証に資するデータ分析に関する検討会」では、各科目ごとの出題数、合格基準及び学習における科目のつながりを踏まえ、２分割、３分割、４分割に分割し、分析が行われたところ。取りまとめられた「介護福祉士国家試験の検証に資するデータ分析報告書」では、分割パータンについて以下のとおり記載され、具体的な分割パターン（次ページ参照）が示されている。

「介護福祉士国家試験の検証に資するデータ分析報告書」

５　分割パターン

○ 受験のための学習への取り組み易さ、受験者の利便性の両側面から受験しやすい仕組みであることを踏まえ、各科目の出題数合格基準及び学習における科目のつながりを踏まえながらパート分けを行うことが望ましい。

○ 本検討会においては、２分割、３分割、４分割について、それぞれ複数のパターンについて検証を行った結果、各１パターンを提示する（別紙参照）。なお、いずれも複数パターンを比較し、科目のつながり及び効果を踏まえ絞り込んだものである。
　また、科目群ごとのデータを検証したものであることから、具体的な導入にあたり、パートごとの科目構成や試験時間の設定については、今一度検討されたい。

○ 分割数については、仮に４分割にした場合、特に試験終了時間が現行に比べ著しく遅くなることから、介護の業務に従事しながら勤務シフトを調整して受験に臨む者にとっては負担となり、受験者の利便性が低下することが懸念される。

○ そのため、受験のための学習への取り組み易さを確保しつつ、受験者の利便性・運営面の負担も考慮すれば、２分割ないしは３分割が望ましい。その中で、学習への取り組み易さをより重視するのであれば、再受験のための学習時に注力すべき科目が特定されることから３分割がより適切ということができる。

# 介護福祉士試験の分割パターン
## ①パートごとの分割方法及び科目の並び順について

### 2分割

| 試験科目 | 領域 | 出題数 |
|---|---|---|
| 人間の尊厳と自立 | 人 | 2 |
| 介護の基本 | 介 | 10 |
| 社会の理解 | 人 | 12 |
| こころとからだのしくみ | こ | 12 |
| 発達と老化の理解 | こ | 8 |
| 認知症の理解 | こ | 10 |
| 障害の理解 | こ | 10 |
| 医療的ケア | | 5 |
| 小計 | | 69 |
| 人間関係とコミュニケーション | 人 | 4 |
| コミュニケーション技術 | 介 | 6 |
| 生活支援技術 | 介 | 26 |
| 介護過程 | 介 | 8 |
| 総合問題 | | 12 |
| 小計 | | 56 |
| 合計 | | 125 |

### 3分割

| | 試験科目 | 領域 | 出題数 |
|---|---|---|---|
| A | 人間の尊厳と自立 | 人 | 2 |
| | 介護の基本 | 介 | 10 |
| | 社会の理解 | 人 | 12 |
| | 人間関係とコミュニケーション | 人 | 4 |
| | コミュニケーション技術 | 介 | 6 |
| | 生活支援技術 | 介 | 26 |
| | 小計 | | 60 |
| B | こころとからだのしくみ | こ | 12 |
| | 発達と老化の理解 | こ | 8 |
| | 認知症の理解 | こ | 10 |
| | 障害の理解 | こ | 10 |
| | 医療的ケア | | 5 |
| | 小計 | | 45 |
| C | 介護過程 | 介 | 8 |
| | 総合問題 | | 12 |
| | 小計 | | 20 |
| | 合計 | | 125 |

### 4分割

| 試験科目 | 領域 | 出題数 |
|---|---|---|
| 人間の尊厳と自立 | 人 | 2 |
| 介護の基本 | 介 | 10 |
| 社会の理解 | 人 | 12 |
| 障害の理解 | こ | 10 |
| 小計 | | 34 |
| 発達と老化の理解 | こ | 8 |
| 認知症の理解 | こ | 10 |
| 医療的ケア | | 5 |
| こころとからだのしくみ | こ | 12 |
| 小計 | | 35 |
| 人間関係とコミュニケーション | 人 | 4 |
| コミュニケーション技術 | 介 | 6 |
| 生活支援技術 | 介 | 26 |
| 小計 | | 36 |
| 介護過程 | 介 | 8 |
| 総合問題 | | 12 |
| 小計 | | 20 |
| 合計 | | 125 |

※領域については下記のように記載している。

人：人間と社会　こ：こころとからだのしくみ　介：介護

# 介護福祉士試験の分割パターン
## ①パートごとの分割方法及び科目の並び順について

○　学習への取り組み易さをより重視するのであれば再受験のための学習時に注力すべき科目が特定されることから、３分割がより適切である。
　また、３分割については、実務経験ルートでの受験者が８割であるという実態も踏まえ、受験者の利便性や運営面の負担の観点から、１日で試験を実施すること、試験終了時間が遅い時間にならないことなど配慮もできる。

○　この中で、昨年度取りまとめられた３分割のパターン（前ページ参照）に関して、パートごとの分割方法及び科目の並び順の考え方等は以下のとおり整理できるが、これを前提に前ページの３分割のパターンで進めることとしてはどうか。

【分割方法及び科目の並び順の考え方】

- パートごとのまとまりについて、現行の試験では、「人間の尊厳と自立」と「介護の基本」、「人間関係とコミュニケーション」と「コミュニケーション技術」が同じ科目群でありながら、午前と午後の試験に分かれて実施していることから、分割案では、この科目群を同じパートにまとめた。

- 科目の並び順について、学習の取り組み易さに配慮して、介護福祉士養成カリキュラムの領域を基本としつつ、学習内容の重なりに考慮して設定した。

# 介護福祉士試験の分割パターン
## ②試験当日の運営方法及び試験時間について

✓　これまで、午前・午後に分けていた方法により単純に３分割して試験を実施する場合、試験前の説明時間の増加やパート別受験のための試験室の移動時間が生じるなど、試験実施に係る所要時間が増加（試験開始時刻を早め、かつ終了時刻を遅くする必要）する。

✓　受験者にとって不利益にも繋がることから、試験の実施方法として、以下のとおりとしてはどうか。

【試験実施のイメージ】

午前

受験者入室（9:15）※現行どおり

**Aパート**

説明等　40分
試験　一般　110分
1.5倍　165分

・午前中にAパート試験、午後にB・Cパート試験（同一時刻開始）を実施する。
・B・Cパート試験は、連続して試験を行い、Bパートのみ、Cパートのみの受験対象者は、試験時間終了後、速やかに退出させる。

休憩

午後

受験者入室（13:30頃）

**B・Cパート**

説明等　40分
試験　一般　110分
1.5倍　165分

1.5倍受験者退室（17:00頃）

※現行プラス30分程度

**Bパート**

説明等　40分
試験　一般　60分
1.5倍　90分

1.5倍受験者退室（15:40頃）

**Cパート**

説明等　40分
試験　一般　50分
1.5倍　75分

1.5倍受験者退室（15:30頃）

1　試験問題は、午前・午後で2分冊とする。
　午後の試験問題は、B・C同時に配布し、パート別に仕切紙を入れ、わかりやすくする。
2　解答用紙は、午前・午後で2枚とする。
　午後の解答用紙は、２パート分を1枚に整理し、受験しないパートはあらかじめ網掛け処理等を行う。
　※既に合格しているパートに関する受験希望の有無は、申請時に確認する。
3　大規模会場（アリーナ等）は、ブロック毎にB・Cパート受験者、Bパート受験者、Cパート受験者が識別できるよう座席を工夫し、パート別の試験終了後、速やかに退出できるようにする。

【効　果】・現行の試験実施に係る所要時間とほぼ同等となる（全科目を受験する場合）。
・パートを分割するほど運営コストが嵩むため、午後のB・Cパート試験を同一時刻に開始することで、会場借料、人件費等のコスト増を抑制することができる。